

2025年4月17日現在

タウンホールCOP イベント・ガイドライン

世界が気候変動対策を加速し、地球規模の気候目標の達成を目指す中で、地域の声、行動、そして現実を国や国際的な気候プロセスに反映させることが極めて重要です。そのギャップを埋めるために創設されたのが「タウンホールCOPイニシアチブ」です。これにより、地域の人々が、草の根から気候政策の未来づくりに参加できるようになります。

このガイドは、あなた自身が「タウンホールCOP」を企画し、開催し、そしてその後のフォローアップを行うための手助けとなるよう設計されています。それは、地域主導でありながら、国レベルでも意味を持ち、変革を志向する対話の場です。住民、地方のリーダー、そして国の政府をつなぎ、実践的で意義のある対話を生み出します。「タウンホールCOPツールキット」には、包摂的で影響力のあるイベントを実施するためのステップバイステップのガイドが含まれています。

本ガイドの中では、準備段階から開催当日、そして終了後までをサポートする実用的なチェックリスト、ファシリテーションのヒント、現場での実例などを紹介しています。

タウンホールCOPは、単なる会議ではありません。それは、地域のリーダーシップを奮い立たせ、地域の革新を称え、そして地球規模の変革に直接貢献する瞬間なのです。

さあ、始めましょう！

01 | タウンホールCOP開催の前に

目標を戦略的に設定しましょう

現在地を振り返りましょう

以下の質問やテーマをよく考えてみてください。まず、あなたの市・町・地域がすでに強みを持っている分野を把握し、次に改善が必要な分野を洗い出しましょう。

これらはすべて、地域レベル・国レベルの包括的な気候変動対策計画において重要な要素であり、いずれも何らかの形で取り上げるべきテーマです。

気候変動エリア	重要な質問	カバーすべき重要な重点分野
緩和策	私たちの地域社会にとって、現在そして将来にわたって持続可能で安全なエネルギー供給をどのように確保すればよいでしょうか？	<ul style="list-style-type: none">● 再生可能エネルギー● 省エネルギー● エネルギー安全保障
適応策	気候変動が私たちの地域社会にもたらす現在および将来の影響に、私たちはどのように備えるのが最も効果的でしょうか？	<ul style="list-style-type: none">● 猛暑● 食料安全保障● 水資源の安全保障● 洪水対策● 山火事の予防
公正な移行	実施される政策や戦略が、すべての人にとって公正でアクセス可能なものとなるようにするには、どうすればよいでしょうか？	<ul style="list-style-type: none">● 地域住民の参加戦略● 環境分野の雇用● スキルやキャリア開発のための研修およびインセンティブ
地球規模の気候変動対策	私たちが地球規模の気候行動に貢献するために、地域、国内、そして国際レベルでの交流やイニシアチブにどのように関与していけばよいでしょうか？	<ul style="list-style-type: none">● グローバルな報告プラットフォームへの参加● 気候変動に関するCOP（国連気候変動枠組条約締約国会議）への関与

他のタウンホールCOPやローカル・ストックテイクからインスピレーションを得ましょう

今こそ、ご自身のタウンホールCOPをどのようなものにしたいのかを考えるときです。目標、形式、対象者についてアイデアを広げるために、他のタウンホールCOPやローカル・ストックテイク（地域気候進捗レビュー）からインスピレーションを得ましょう。

オーストラリア・グレートシドニー

2025年3月、グレートシドニー地域では、16の地方自治体が集まり、気候変動対策、地域の優先事項、オーストラリアの国の気候コミットメントについて、終日対話を行う地域タウンホールCOPを開催しました。「タラノア対話」形式を用いたこのイベントでは、再生可能エネルギー、水資源のレジリエンス、誤情報、公正な移行といったテーマについて、率直で包摂的な議論の場が設けられました。参加した自治体は、自らの気候リーダーシップと同時に、直面する障壁も共有し、国政府とのより深い連携の必要性を強調しました。この事例は、タウンホールCOPのモデルが、グローバルなプロセスを地域の現実に根づかせ、共同行動を促し、国の気候計画づくりに地域の声を反映させる可能性を示しました。[\[ブログ記事を読む →\]](#)

ウガンダ・カンパラ

タウンホールCOPの実践例として特に注目されたのが、2023年にウガンダ・カンパラで行われた若者主導のローカル・ストックテイクです。これは、24歳の気候活動家ウォルター・オンガイ・エティペシトによって企画されました。参加者は100人以上で、その75%が若者という、包摂的かつコミュニティ主導の気候対話の力を象徴するイベントでした。市の関与は最小限でしたが、若者団体の支援により、地域の気候正義の課題やレジリエンスの必要性に焦点を当て、NDC（国が決定する貢献）の実施に対する国レベルでの実質的な関与を求める場となりました。ウォルターのストーリーは、タウンホールCOPが地域の声を力強く引き上げ、国家政策に影響を与える可能性を持つことを示しています。[\[さらにインスピレーションを得るには、ブログ全文を読む →\]](#)

フィンランド・トゥルク

2023年11月、フィンランドの都市トゥルクでは、市庁舎でローカル・ストックテイクが開催され、住民、地域団体、学生が参加して、2029年までの気候中立達成に向けた公開対話が行われました。

市は自らの気候戦略を紹介し、参加者からは2030年に向けたビジョンが共有されました。議題には、公共交通、都市の自然、気候不安、成功事例の「見える化」の必要性などが含まれました。このイベントは、振り返りやネットワーキング、共同アクションの場を生み出し、タウンホールCOPが地域社会に未来の気候ビジョンを共創する力を与えることを実証しました。[\[ブログ全文を読む →\]](#)

スコットランド・グラスゴー（イギリス）

2023年に開催されたグラスゴーのローカル・ストックテイクは、単なる気候対策の進捗確認にとどまらず、住民にとって「持続可能な未来」がどのような姿で、どのような感覚であるべきかを再定義する創造的なフォーラムとなりました。このイベントでは、[専門的で分かりにくくなりがちな気候関連の言葉をわかりやすく伝え](#)、地域住民の希望や願いを中心に据えることで、参加のハードルを下げることに重点が置かれました。手頃な価格のグリーン交通手段や太陽光発電の家、豊かな都市の自然や食料システムといったビジョンが語られ、参加者たちは地域の「気候ストーリー」を、公正さと共同の想像力に基づいて共に描きました。このアプローチは、タウンホールCOPが単なる対話の場にとどまらず、気候変革における「共有された当事者意識」を育む場にもなりうることを示しています。[\[ブログ全文を読む →\]](#)

誰があなたのタウンホールCOPに関わるべきかを検討する

ステークホルダーをすべて洗い出しましょう

準備に基づいて、関係するすべてのステークホルダー（利害関係者）をマッピングしましょう。これらの人々・団体は、前述の気候関連のテーマによってどのような影響を受けているでしょうか？すでに自分の地域にある政策にはどのようなものがありますか？それらのテーマは、地域の気候行動計画に含まれていますか？次に、気候変動の影響を最も受ける人々に特に焦点を当てつつ、できる限り多様なグループの代表が参加できるようにする方法を考えてください。権力関係の不均衡にも注意し、とくに声が届きにくい人たちにも発言の場を確保するようにしましょう。

インクルーシブな会議戦略を策定しましょう。すでに地域でインクルーシブな会議運営に関するガイドラインがある場合は、それを積極的に活用しましょう。

- 地域社会に存在する多様なグループを考慮し、公平な代表性を確保するための計画を立てることが大切です。特に、社会的に不利な立場にある人々を意識的に招き、普段は声が届きにくい人たちにも参加を呼びかけましょう。
- 対象グループが参加しやすくなるように、会議のアクセシビリティをどう高められるかを考えてみましょう。そのグループの参加を妨げている障壁は何でしょうか？それらの障壁を取り除くために、どのような支援ができるでしょうか？
 - 経済的負担（交通費や参加費など）、日時の制約（平日昼間など参加しにくい時間帯の開催）、会場の立地や交通アクセスの問題、言語の壁（通訳や翻訳の有無）
- さらに、情報発信についてもインクルーシブな手法を取りましょう。多様な情報チャンネル（SNS、チラシ、地域メディアなど）を使い分け、地域社会の誰にでも伝わるよう、明確でわかりやすい言葉で案内や説明を行うことが重要です。

地域および国の政府代表者を、関与の度合いにかかわらず、あなたのタウンホールCOPに招待しましょう。

イベントの準備をしましょう

目標に基づいて形式、内容、議題を作成する

これまでに設定した目標を踏まえて、イベントの構成を考える時が来ました。イベントの各パートにおいて、選択した内容や形式がタウンホールCOPの目標に沿っているかどうかを常に確認しましょう。

参加者は、タウンホールCOPに効果的に参加するために事前に専門的な知識を持っている必要はありません。会議の中で、すべての参加者が共通の理解を持てるよう、重要なポイントの概要をわかりやすく提示することが重要です。これを支援するために、事前に読める資料を提供して参加者が基本的な情報に慣れるようにするのは有効ですが、それだけでなく、タウンホールCOPの開催中に必ず高レベルの概要説明を行うことが必要です。

理想的なイベント形式の構成要素を決定しましょう

各タウンホールCOPは、イベントの全体目標を達成するために、1つまたは複数の形式で構成することができます。主な形式には以下のようなものがあります：

- **パネルディスカッション**：専門家が見識を共有し、参加者からの質疑応答が限定的に行われます。（ただし、参加者の積極的な関与が難しいため、タウンホールCOPではこの形式のみで構成することは推奨しません。1時間程度にとどめ、その後以下のようなよりインタラクティブな形式へ移行するのが望ましいです。）
- **ラウンドテーブル**：アイデアを共有し、協働での演習を行うインタラクティブな対話形式です。
- **ワークショップ**：参加者同士が実際に手を動かしながら協力し、共にアイデアや解決策を創り出す形式です。
- **パブリックフォーラム**：地域コミュニティが参加し、自由に意見交換を行う公開対話の場です。

タウンホールCOPで共有したい情報を決めましょう

以下の要素を盛り込んだプレゼンテーションを作成してください：

- 地域・地方の気候目標（緩和策／適応策／公正な移行／移動性／再生可能エネルギー／循環型開発）
- これらの目標達成に向けて取り組んでいるプロジェクトやプログラム、イニシアチブの概要

- あなたの国の現行の国家気候計画が地域での強力な取り組みをどのように反映しているか、またどこが不十分かを検証してください。
 - 国が定める貢献（NDC）3.0の概要（内容とプロセス）
 - 既存のNDCの概要（主要な要素、合致している部分、改善が必要な部分）
 - CHAMPコミットの場合：CHAMPの概要（コミットメントの内容、国政府が地方関係者を巻き込むために取ったステップの概要）

議論の焦点は、あくまで地域の状況に置きましょう。

地域・国の政府は、気候行動を支援し強化する重要なパートナーとなりえます。地域コミュニティとともに、これまで話し合ってきた行動を支援するために、他の政府がどのような役割を果たすべきかについて話し合うワークショップや演習を取り入れることも検討してください。

タウンホールCOPの例示的な議事次第（アジェンダ）

この議事次第は、あなたの地域コミュニティに最適な形に合わせて調整してください。

- 地域のリーダーや、地域社会のさまざまなセグメントのステークホルダー、そして国の政府代表者による **開会の挨拶**
- 地域の気候目標や計画、地域イニシアチブのレビューを通じて、**地域から国や世界の目標への貢献を確認**
- **国家及び国際目標との整合性**：世界の持続可能な開発目標（SDGs）および自国のコミットメントの確認
- **ラウンドテーブル/対話セッション**：特定のイニシアチブに焦点を当てるか、いくつかの持続可能性分野について議論します。ブレイクアウトグループやラウンドテーブルディスカッション、プロジェクトフェアなど、地域に最も適した形式で行いましょう。議論の目的は、ステークホルダーが国レベルでの支援を望む地域のプロジェクトやプログラム、イニシアチブを特定することです。また、地域でうまく機能している取り組みの中で、全国的に展開または拡大可能なものを見つけ出します。さらに、新たなパートナーシップや資源の活用によって、既存の優先事項を強化できる可能性も探ります。
- **成果と次のステップ**：主要な成果をまとめ、今後の行動計画を策定します。参加者が実際に推進できる行動に焦点を当てましょう。

チェックリスト：イベント前

目標の戦略を練りましょう

- あなたの都市が気候変動対策や政策立案において持つ強みと弱みを考慮する。
- このドキュメントで示された重要な要素を見直し、それらがあなたの都市や地域社会にとってどのような意味を持つかを検討する。
- さらに、これらすべてが国の気候計画とどのように関連しているかを考え、このプロセスの一環として国政府と最も効果的に関わる方法を模索する。

タウンホールCOPに参加すべき人を検討しましょう

- あなたの都市のステークホルダー参加に関する方針を見直す。
- ここで示された推奨事項を確認し、新たに取り入れるべき要素がないか検討する。
- ステークホルダーをマッピングする。
- タウンホールCOPにおける包摂的な参加戦略の概要をまとめる。

イベントの準備をしましょう

- 過去に開催されたタウンホールCOPで提供されたツールやリンクからインスピレーションを得る。
- 戦略的な目標とステークホルダーのマッピングを踏まえたうえで、議事次第（アジェンダ）を作成する。
- あなたの地域やステークホルダーに最も適したイベント形式を検討し、それが目標達成に役立つかどうかを考える。
- 効果的で、かつあなたが特定したステークホルダーの関心を引くスピーカーを決定する。
- スピーカーと参加者を招待する。
- 可能であれば、国政府の代表者に発言の機会を持ってもらうよう招待し、最低でも参加は確保する。
- 可能であれば、ケータリングや公共交通機関の利用方法も含めて、会議の運営・準備の実務面を計画する。

02 | タウンホールCOP開催時

参加者全員が発言できるように議論をファシリテートしましょう

- 専門知識がなくても理解できるように、議論のテーマをわかりやすく提示しましょう。
- 発言や意見を引き出すために、口頭での話し合いと付箋やカードへの記入など、さまざまなファシリテーション手法を組み合わせ活用しましょう。
- 発言の機会が公平に分配されるように進行をサポートしましょう。
- 参加と積極的な関わりを促す雰囲気を作り出しましょう。

会場にいる地域および国の代表者を積極的に巻き込みましょう

- 適宜、発言の役割を与えとともに、ブレイクアウトグループや議論にも参加し、耳を傾けてもらうよう促しましょう。
- 総括の議論に関与してもらい、イベントから持ち帰ってほしいメッセージを共有してもらいましょう。
- この時間を使って、代表者たちとの関係構築をしっかり行うことが重要です。彼らはあなたの取り組みを前進させる上で重要な連絡先となります。

会議の議論内容を記録しましょう

会議中に写真や動画、メモ取りなど適切な方法で議論の内容を記録する時間を設けましょう。これらの記録は、内部での振り返りに役立つだけでなく、報告やフォローアップのプロセスを支援するものとなります。

チェックリスト：イベント開催時

参加者全員が発言できるように議論をファシリテートしましょう

- 誰にとってもわかりやすく、身近に感じられる形でテーマを提示する
- さまざまな方法を組み合わせて、全員が参加しやすい環境をつくる
- 発言の機会を公平に分け合う
- 誰もが安心して意見を出せるリラックスした雰囲気を作る

会場にいる地域と国の代表者を積極的に巻き込みましょう

- 代表者が発言や参加の機会を持てるように配慮する
- 最後にイベントの重要なポイントや気づきを共有してもらう
- 代表者との関係構築に努める！

議論内容を記録しましょう（報告のために役立てるため）

- 写真や動画を撮影する
- 発言内容を記録するために記録係を配置する
- 参加者全員に氏名、所属組織、メールアドレスを最低限記入してもらう（これにより、参加者へのフォローアップやステークホルダー参加戦略の効果測定が可能になります）
- 参加者のフィードバックを得たい場合はアンケートを実施する。紙のアンケートを配布するか、リンクやQRコードを提供してその場で回答してもらう方法がある。
- イベントの前後にメディアへ情報発信を行う

03 | タウンホールCOP開催後

イクレイと経験を共有しましょう

あなたのタウンホールCOPは、イベント当日で終わるものではありません。イクレイには世界中から登録されたタウンホールCOPがあり、その成果を国内外のプロセスで共有したいと考えています。あなたの報告はこの取り組みにとって非常に重要であり、報告には15分以上かからないはずです。イクレイに登録されたすべてのタウンホールCOPには、報告フォームへのリンクが送付されます。

国政府にあなたの取組を報告しましょう

タウンホールCOPのプロセスにおいて、国の政府に対してあなたのタウンホールCOPの実施内容を報告することは非常に重要な要素です。どう進めればよいかわからない場合でも、国政府の関与度に関わらず、以下のようなさまざまな方法を試みることをお勧めします。

参加者へのフォローアップを行いましょう

イベントが終わっても、取り組みはそこで終わりではありません。合意された報告書をしっかり記入し、イクレイに経験を共有する時間を確保しましょう。これにより、イクレイがこの取り組みに関するデータを集める支援となるだけでなく、あなたのメッセージや行動が広く共有され、国際レベルで貢献するために不可欠なステップとなります。

イクレイに報告するだけでなく、あなたのタウンホールCOPの成果を国の政府にも必ず共有しましょう。政府にとって特に関心の高いポイントを強調し、国家の視点にとって有益となる形で文脈を整理することが重要です。

最後に、このイベントについて参加者や市民との連絡がこれで終わらないようにしましょう。フォローアップは極めて重要です。成果を共有する際は、参加者へのお礼メール、ニュースレター、SNSなど、複数のチャネルを通じて行いましょう。今後の展開について、どのように成果を活用し、市民とどのような情報を共有することが最も意味のあることなのかも検討してください。

チェックリスト：開催後

イクレイと経験を共有しましょう

- イベント終了後、できるだけ早く（理想的には1～2週間以内に）報告フォームに記入する。

タウンホールCOPの成果を国の政府に報告しましょう

- 提供する情報や成果を、政府にとって最も関心のある形に整理できないかを検討する。
- 最も効果的な連絡手段を考える（場合によっては複数のルートを使う方が効果的なこともあります）
- 必要であれば、イクレイにサポートを依頼する。

参加者に直接フォローアップしましょう

- 参加への感謝の気持ちや、彼らの貢献がどのように活用されるのか、今後このテーマに関して何が予定されているのかを伝えるために、最適な連絡方法を検討する。

地域社会へのフォローアップを行いましょう

- 成果を地域社会に広く共有し、それがどのような意味を持つのか、そして今後どのように活用されるのかをわかりやすく伝える。